

シンポジウムで

建設業界の電子化促進策を議論

建設業界における電子商取引の最新動向などを紹介するイベント「CI-NEET / C-CADDECシンポジウム」が2月26日に開催された。CI-NEET関連では、先進的な導入・活用事例の紹介と合わせて、パネルディスカッションにより今後の普及拡大に向けたポイントが提示された。

今年で20回を数える「CI-NEET / C-CADDECシンポジウム」(建設業振興基金・建設産業情報推進センター主催)は、東京・虎ノ門の日本消防会館ニッシーホールで開催され、ゼネコンや専門工事業者など業界関係者340名が参加した。

最初の講演では、国土交通省大臣官房審議官の河村正人氏が、建設業



パネルディスカッション
「電子商取引の次のステージに向けて」の様子

の現状と今後の課題について解説。昨今の景気低迷や公共投資抑制により、業界が非常に厳

しい状況にあることを示したうえで、エコ住宅・エコリフォームといった環境対策への取り組み、異業種と連携した地域活性化事業などを、今後の成長のポイントに掲げた。また、業務の効率化・簡素化・リスク軽減を図るためのICT活用の重要性も指摘し、業界標準の電子データ交換規約である「CI-NEET」のより一層の普及を望んだ。

続いて、CADデータなど設計・製造情報の標準化を推進する「C-CADDEC」について、4つの委員会の各委員長が活動報告を行った。午前の部の最後には、国土交通省総合政策局建設業課・課長補佐の中村弘氏が登壇。「建設業法令遵守について」と題し、元請・下請間の

トラブルについて実態調査などの結果を提示しながら、現在の問題点とその解決策、監督官庁としての取り組みなどを紹介した。

CI-NEET活用のノウハウを披露

午後の部は、「CI-NEET」にスポットを当て、いち早い導入・活用で成果をあげているゼネコン2社の事例発表およびパネルディスカッションが行われた。

事例発表では、フジタ・調達本部調達部次長の中島秀明氏、鹿島建設・建築管理本部建築工務部コストグループ長の平野隆氏が、それぞれ自社の取り組みを紹介した。中島氏は、ローリスクをキーワードに電子商取引の段階的導入や効率的な運用に関するノウハウを披露。平野氏は、社内から協力会社へと進めてきた電子化の普及展開活動とその効果を詳説した。

【CI-NET/C-CADECシンポジウムのプログラム】

- 講演「建設業の現状と今後の課題について」
・国土交通省大臣官房審議官 河村正人 氏
- 報告「C-CADEC活動の紹介」
・C-CADEC運営委員長 山下純一 氏 (CIラボ代表取締役)
・建築EC推進委員会 委員長 岡 正樹 氏 (CIラボ顧問)
・空荷設備EC推進委員会 委員長 三木秀樹 氏 (須賀工業 安全・品質・環境部長)
・電気設備EC推進委員会 委員長 鈴木義夫 氏 (関電工 営業統轄本部エンジニアリング部副部长)
- 講演「建設業法令遵守について」
・国土交通省総合政策局建設業課 課長補佐 中村弘明 氏
- 報告「電子商取引の導入・活用事例の紹介」
・フジタ 調達本部調達部 次長 中島秀明 氏
・鹿島建設 建築管理本部建築工務部コストグループ グループ長 平野 隆 氏
- パネルディスカッション「電子商取引の次のステージに向けて」
・コーディネーター: 安藤建設 社長室情報企画部長 森田雅支 氏
・パネリスト
・国土交通省総合政策局建設市場整備課 企画専門官 新宅幸夫 氏
・大林組 東京本社情報ソリューション部電子調達ソリューション課長 森川直洋 氏
・竹中工務店 生産本部調達部 課長代理 調達担当 宮口幹太 氏
・関電工 業務システム部業務システムチーム 副長 清田 達 氏
・新日本空調 事業推進統括本部事業統括部 部長 木屋尾和之 氏

シンポジウムの資料・ビデオは、建設産業情報推進センターのホームページに掲載されている。
<http://www.kensetsu-kikin.or.jp/ci-net/index.html>

国土交通省の新宅幸夫氏の5名が参加。コーディネータは安藤建設の森田雅支氏が務めた。

各氏からは、現在の課題として地域ゼネコンや専門工事業者への普及拡大などがポイントにあげられ、導入・運用にかかるコストや手間のさらなる低減が要望された。

また、ASPサービスに対して、類似物件の明細検索や価格解析、工事関連情報の共有など電子商取引にとどまらない付加機能の提供を求め意見もあった。